

日々はOracle APEX

Oracle APEXを使った作業をしていて、気の付いたところを忘れないようにメモをとります。

2021年2月14日 日曜日

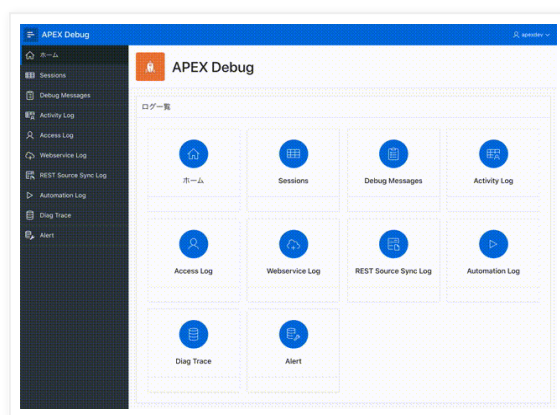
実行時のみの環境でのデバッグ方法について

Oracle APEXはインストール時にapexins.sqlの代わりにapxrtins.sqlを実行することで、アプリケーションの実行のみを行う環境を作ることができます。管理や開発のアプリケーションを含まず、それらの作業はすべてコマンドラインから実行します。

アプリケーションのインストール方法は、以前に[こちらの記事](#)で紹介しています。

そのような環境でアプリケーションのデバッグはどのように行うのか？という質問がありました。ひとつの方法は、[Peter Raganitschさんの記事](#)にあるような、Oracle APEXのZIPファイルに含まれるutilities/debug/以下のd0.1sq., d1.sql, d2.sql, ds.sqlなどのスクリプトを使用する方法です。ただし、これはDBにDBA権限か少なくともAPEXの製品スキーマへ直接アクセスできる権限がないと実行できません。

APEXのセッションのデバッグ・レベルを設定するAPIとして、[APEX_SESSION.SET_DEBUG](#)、トレース・モードを設定するAPIとして[APEX_SESSION.SET_TRACE](#)が提供されています。このAPIと、Oracle APEXが提供している各種のビューを検索することにより、アプリケーションのデバッグができる、とのことだったので、ちょっとアプリケーションを作ってみました。



APEX_WORKSPACE_SESSIONSビューについては、デバッグ・レベル、トレース・モードを変更できるようにしていますが、それ以外は単にビューを * でselectしているだけです。

APEXが提供しているビューではありませんが、V\$DIAG_TRACE_FILE_CONTENTS、V\$DIAG_ALERT_EXTを表示するページも追加しています。ワークスペース・スキーマは通常、これらのビューを検索する権限は持っていないので、ページを機能させるためには管理者によって、これらのビューへのSELECT権限をGRANTしてもらう必要があります。

実行環境のみのインストールはセキュリティ面で有利なことは間違いありませんが、ドイツのAPEX Connect 2018というイベントであった[Built with APEXというセッション](#)(11分経過くらいのスライド)によると、**"Hardly anyone uses Runtime installation or protects APEX Workspace Login Page from being opened"**とのことで、あまり利用されていないようです。

最近はSQLclに[Liquibase](#)が組み込まれたりするなど、コマンド・ラインによる管理や連携方法も充実してきたので、ちゃんと検討したいテーマではあります。

作成したアプリケーションのエクスポートを以下に置きました。何かの参考になれば幸いです。

<https://github.com/ujnak/apexapps/blob/master/exports/sampleapexdebug.sql>

デバッグ・レベルを9まであげると、環境によっては処理がほとんど止まってしまうので、注意しましょう。

完

[Yuji N.](#) 時刻: 12:31

共有

◀

ホーム

▶

[ウェブ バージョンを表示](#)

自己紹介

[Yuji N.](#)

日本オラクル株式会社に勤務していて、Oracle APEXのGroundbreaker Advocateを拝命しました。
こちらの記事につきましては、免責事項の参照をお願いいたします。

[詳細プロフィールを表示](#)

Powered by Blogger.
